

# 学校評価書

学校名(東温市立拝志小学校)  
令和8年2月10日

- 1 学校の教育目標 気づき、考え、よく動く児童の育成  
2 経営の基本方針 地域・保護者と共に歩み、安全・安心でぬくもりのある学校づくりを進め、確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成を図る。(評価・・・4:達成 3:ほぼ達成 2:達成されていない 1:改善が必要)

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			○ 考察 ● 改善方策	学校関係者評価委員の評価
	太字：重点項目		教職員	児童	保護者		
生徒指導	<b>いじめ・不登校等への対応</b>	いじめを許さない毅然とした指導と、不登校への予防的取組に努めた。	3.6	3.8	3.5	○「いじめ・不登校への対応」については、トラブルが生じた際に、報告・連絡・相談を行い、管理職を含めたチームで対応することができている。いじめについても複数回の認知はあったが、早期対応により大きな問題に発展することなく解決することができており、児童が安心して過ごせる環境づくりにつながっている。 ○児童間のトラブルについては、定期的なアンケートと教育相談の実施、毎週の児童部会の開催をととして児童理解に努めるとともに、教職員間で共通理解を図りながら対応してきたことで、深刻化することなく解決することができた。 ○挨拶について学校全体で継続的に指導してきた結果、意識して挨拶をする児童が増えつつある。教職員の声掛けや働き掛けが、児童の行動の変化につながっている。 ●今後も、トラブル発生時には、より早い段階で報告・連絡・相談を行い、小さな事案であっても組織的に対応していく必要がある。一人で抱え込まず、生徒指導主事や管理職等と連携しながら共通理解を図っていく必要がある。 ●児童理解については、毎週の終礼を活用した児童部会をより効果的に活用し、タイムリーな情報共有を行っていく。挨拶については、改善の余地が大きい。今後も教職員が見本となり、全校的な取組と学級での指導を継続することで、挨拶の定着を図っていく。	・いじめ防止に関する取組について教職員間で共通理解が図られ、組織的に対応している点が評価できる。児童の様子を丁寧に見取り、早期対応に努めてほしい。 ・全体的に登校時の児童の挨拶の声は小さく、下校時は大きいと感じる。朝、元気に学校に行くために、集合場所で登校班ごとに整列し、全員で挨拶をしてから出発する取組を継続して行っている。 ・不登校への対応については、状況に応じた支援が行われており、今後は多様な学びの選択肢が広がることを期待したい。 ・挨拶の取組が学校全体に定着していくことで、児童同士や教職員との関係づくりにより影響を与えていくと思う。いじめの未然防止にもつながるため、今後も継続した指導が大切である。
	基本的な生活習慣の定着	気持ちのよい挨拶や、早寝・早起き・朝ご飯などの基本的な生活習慣の定着に努めた。	3.1	3.2	3.2		
	児童理解の促進	児童情報を共有し、児童理解に基づく教育相談、教育環境の整備に努めた。	3.4	3.7	3.5		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	学習状況に対応した学習指導内容・方法を工夫し、基礎・基本の充実を図った。	3.2	3.6	3.5	○協働的な学びを取り入れた授業改善を進めてきたことで、児童が学ぶことを肯定的に捉え、主体的に考え、学びを深めようとする姿が見られるようになってきた。話し合い活動を中心とした「ハイリタイム」が多くの学級で日常的に行われていることで、協働的な学びの基盤が少しずつ整ってきている。 ○授業や行事等で地域の方や保護者の方の前で発表する機会が多くあることで、児童の学習意欲や表現力の向上につながってきている。人前で伝える経験を重ねる中で、自分の考えに自信をもって発表しようとする姿が見られるようになり、学びを深めようとする主体的な態度や自己肯定感の育成にも効果を上げている。 ○図書委員会が中心となり、全校集会の「読書まつり」や図書館での季節ごとのイベントを開くなどの継続した取組をすることで、児童の読書への意欲化が図られてきている。 ●個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実については、継続した課題である。個の学びを全体につなげ、全体の学びを個に還元する授業づくりを意識し、「ハイリタイム」や「振り返り」の時間の効果的な取組を考慮し、学校全体で共通理解しながら進めていく。	・小規模校のよさを生かし、一人一人の理解度や実態に応じた丁寧な指導が行われている。今後も、個に応じた支援や声掛けを大切にしながら、基礎・基本の定着を図ってほしい。 ・参観日の様子を見ると、話し合いやグループ発表などの学習活動をととして、自分の考えを伝えようとする姿が見られる。 ・学校運営協議会では、6年生が話し合った内容を分かりやすくまとめて発表しており、今後も多くの人の前で発表する機会を意図的に設けていくとよい。
	家庭学習の充実	宿題の内容や量の工夫、確実な見取り・処理、保護者との協力により、家庭学習の習慣が定着するように努めた。	3.2	3.2	3.3		
	協働的な学びの充実	協働的な学びの場づくりを工夫し、主体的に考え、学びを深めるよう努めた。	3.5	3.6	3.4		
豊かな心、健やかな体を育てる教育	<b>道徳教育の充実</b>	思いやりの心を育み、よりよくともに生きようとする児童の育成に向けて、道徳教育の充実を努めた。	3.3	3.6	3.6	○「なかよし遊び」や「なかよし班清掃」を通して、異学年と優しく関わろうとする児童の姿が多く見られた。年齢の違いを意識しながら相手思いやりの行動が自然に表れており、望ましい人間関係づくりにつながっている。 ○人権・同和教育の視点を大切にしながら、「みんなが気持ちよく過ごすためにはどのような行動や言葉が必要か」を折に触れて考えさせることができた。日常生活の中で、相手の立場を意識した言動を促す指導が進められている。 ○縄跳びの取組をきっかけに、外遊びをする児童が少しずつ増えてきている。天候のよい日には、学級や全校で体を動かすよう呼び掛けることで、運動に親しもうとする意識の高まりが見られる。 ○全校給食では、高学年の児童が低学年の児童に配膳や片付けの仕方を丁寧に教える姿が見られ、思いやりや責任感が育っていることを感じている。 ●全校給食は、実施の時期や回数、準備の在り方について検討した。学級給食のよさも大事にしたいという意見も多く、今年度は2学期からのスタートとし、毎月1週間行うようにした。実施の時期や回数、準備の在り方については、今後もよりよい在り方を検討していく。児童や教職員の意見も踏まえながら、負担軽減と教育的効果の両立を図っていく。 ●マラソンや縄跳びが苦手な児童への配慮については、教職員間で共通理解を図り、個に応じた指導を工夫していく。また、異学年交流についても、活動内容や回数を見直し、より幅広い人間関係づくりにつなげていく。	・異学年活動では、児童が物おじせずに自己紹介をしたり、活動を進めたりする姿が見られる。異学年との関わりを通して、人前で表現する力や協調性が育ってきていると感じる。 ・縄跳びに限らず、日常的に体を動かすことの大切さを意識した取組が行われている。運動に親しむ習慣を身に付け、体力の向上や心身の健やかな成長につながるよう、今後も取組を継続してほしい。 ・学校の特色である全校給食は、実施方法を工夫しながら継続されており、異学年の交流を深めるよい機会となっている。今後も継続することで、児童同士のつながりがさらに深まることを期待したい。
	仲間づくり・集団づくり	異学年活動やなかよし遊びを実施し、学年を超えた関わりの中で、人間関係づくりを推進した。	3.3	3.6	3.6		
	健康づくり・体力づくり	健康的な生活への実践力を培う健康教育を推進した。	3.3	3.2	3.4		
	食育の充実	給食を通して、好き嫌いなく食べるなどの食に関する指導を推進した。	3.5	3.6	3.2		
特別支援教育	特別支援教育の充実	配慮を要する児童についての共通理解を図り、きめ細かい学習支援に努めた。	3.5	3.6	3.5	○定期的な児童部会や終礼の時間を活用し、配慮を要する児童や気になる児童について、教職員間で情報共有を行うことができた。日常的に気軽に情報交換を行うことで、トラブルの未然防止や早期対応につながり、指導や支援に生かすことができていく。 ○小規模校の特性を生かし、学級担任が一人で抱え込むことなく、管理職や関係する教職員と連携しながら対応する体制が整いつつある。継続的な情報共有により、児童一人一人に応じたよりよい支援を検討することができている。特別支援コーディネーターを中心に、校内支援体制を機能させ、組織的な支援の充実が図られている。 ●配慮を要する児童への支援について、校内での役割分担や支援の進め方を整理し、組織的な支援体制をより一層整えていきたい。	・少人数という学校のよさを生かし、児童一人一人の特性や違いを大切に指導が行われている。 ・様々な考え方や感じ方をもつ人がいて当たり前であることを学び、互いを認め合いながら成長していけるよう、今後も丁寧な関わりを続けてほしい。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	見守り隊活動などによる、登下校の安全確保に努めた。	3.4	3.6	3.7	○避難訓練については、実施後に教職員で反省点を話し合い、改善に向けて取り組むことができた。様々な想定を意識した訓練や、防災と人権・同和教育を関連付けた取組を行ったことが、児童の防災意識の向上につながっている。 ○登下校の安全確保については、地域の見守り隊の方々を中心に、猛暑日や荒天の日も含め日常的な見守り活動が継続されている。そのため、児童は大きな事故等なく安全に登下校することができている。約30名の方に見守り隊として登録いただき、熱心に活動してくださっていることから、保護者からも信頼されている。 ●低学年の下校時の見守りについては、不安の声もあることから、低学年担任と学習支援員、専科教員等が連携し、保護者、地域にも協力を仰ぎながら可能な範囲での見守り体制を工夫していく必要がある。 ●避難訓練については、今後も様々な状況を想定した訓練を実施し、教職員が真剣に取り組む姿勢をととして児童の防災意識を高めていく。また、訓練の様子については、校報やホームページ等を活用し、保護者への情報発信を行っていく。	・登下校時の見守り活動は、児童の様子を確認したり、声を掛けたりする大切な時間となっている。できる限り継続し、安心して登下校できる環境を維持していきたい。 ・近隣に大型の店舗がオープンすることで、今以上に交通量が増えることが予想される。今後、さらに登下校の安全に注意が必要である。児童が一人で歩くなど基本的なルールを徹底し、事故防止に努めた。
	防災教育の充実	災害時の対応について、教職員、児童、保護者の意識の高揚に努め、避難行動の訓練を行った。	3.5	3.7	3.7		・地域の人との関わりを大切に、通り返りの方にも進んで挨拶ができる児童に育つよう、声掛けを継続していきたい。
家庭・地域との連携	<b>開かれた学校づくりとコミュニティ・スクールの推進</b>	地域人材を生かしたり、運動会、奉仕作業等の行事運営をPTAや地域と協力して行ったりするなど、学校運営協議会と連携して地域と共にある学校づくりに努めた。	3.6	3.4	3.7	○学校運営協議会、地域の方々、PTAの方々の各種行事への積極的な参加をいただき、大変ありがたく感じている。児童は、様々な行事をととして、学校や地域を愛する心情が確実に育っている。また、多くの大人と関わる経験を重ねることで、感謝の気持ちや規範意識が育まれ、地域の一員としての自覚や社会性の向上にもつながっている。 ○生活科の町探検等の校外学習をととして、拝志小学校は徒歩圏内に多くの学びの場があることに改めて気付くことができた。地域の方々との交流を深めることもでき、交流を通して見守りの目が増えたことで、児童や保護者の安心感につながっている。 ○昨年度に引き続き、6年生が学校運営協議会(子どもの未来を語る会)に参加した。児童・教職員・地域の方々で直接対話する貴重な機会となった。 ●地域との交流は大切にしていきたいながら、同時に行事の精選も進めていく。行事の目的や教育的意義を改めて整理し、重複する内容の統合や実施方法の見直しを行うことで、準備や運営の負担軽減を図るとともに、より効果的で質の高い行事となるよう改善を進めていく。 ●修学旅行のホームページ更新の頻度について保護者の方から回数を増やしてほしいとの声があった。児童への安全確保を第一にし、ながら保護者の安心につながる情報発信に努める。	・拝志小学校は、家庭・地域・学校が連携しながら教育活動を進めており、その土台がしっかりしていると感じる。行事や取組をととして顔の見える関係づくりができている点は、今後も大切にしていきたい。 ・行事への参加を通して、児童が地域や家庭に支えられていることを実感している様子が伝わってくる。一方で、行事の内容については、隔年開催が可能なのがあるかどうかを精査し、無理のない形で継続していくことも必要だと感じた。 ・今後は、保護者だけでなく地域の方も参加しやすい行事や取組を整理・工夫することで、より多くの人に学校の様子を知ってもらう機会が広がることよい。その際、行事の在り方を見直ししながら、持続可能な連携を図っていくことが期待される。
	情報発信	校報や学年だより、ホームページなどによる情報発信に努めた。	3.6	3.3	3.6		
特色ある学校づくり	学校、家庭、地域総掛かりで取り組む共に学ぶ授業づくり	家庭・地域を巻き込んだ行事や体験活動、授業を企画・運営するなど、共に学ぶ授業づくりに努めた。	3.6	3.8	3.6	○昨年度作成した地域連携協働活動の人材バンクや実践事例をまとめたファイルを活用するなどして、どの学年も地域人材を生かした授業を展開し、子どもたちの自己肯定感や学びの質が高まった。児童は、地域の方々との交流を通して多様な経験を積むことができ、主体的に学ぶ姿勢や地域への関心を高めることにもつながった。 ○150周年記念行事の「きまぐれ」など、児童にとって興味・関心の高い特色ある行事も好評であり、本校ならではの教育を実践できた。地域人材や行政機関等の出前講座を積極的に活用することで、学習活動の幅が広がり、児童の学習意欲や理解の深化にもつながった。また、地域との連携を深めることで、児童の社会性や協働性の育成にも成果が見られた。 ●教職員や児童の負担にならないよう、各学年で根拠をもって授業や行事を精選し、持続可能なカリキュラムを構築していく必要がある。そのため、学年間の共通理解を図り、計画的・組織的に見直しを進めていくことが重要である。 ●来年度に向けて、改善点や工夫を確実に記録に残し、次年度の計画に生かしていく。	・伝承交流会や3年生との交流会での「ろくむし」など、昨年度に引き続いて参加することができて、とても楽しかった。交流会やゲストティーチャーとしての関わりをととして、児童と一緒に学んだり遊んだりする機会が、双方にとって大きな学びや元気につながっていると感じた。交流後も学びが継続している様子が見られている。特色ある取組として今後も大切にしていきたい。 ・今後は、学校・家庭・地域が話し合いながら連携を深めていくことで、拝志小学校ならではの特色がさらに明確になり、教育活動の成果も一層高まっていくことを期待したい。
施設・設備の充実	<b>ICTの有効活用</b>	プログラミング的思考を育成するための実践や、タブレット端末や電子黒板等整備された機器を活用するなど、ICT機器を活用し教育効果を高めるよう努めた。	3.5	3.7	3.4	○ICT技術は日々進化しており、研修やICT支援員の協力をととして、授業や業務の充実につながっている。教員のICT活用能力も向上している。 ○地域協働活動活動サポーターの方に環境整備を依頼することで、教職員の業務改善につながった。施設の修繕も速やかに行うことができ、安全・安心な学校運営に役立っている。特に教職員では対応が難しい修繕や維持管理もサポーターの方に任せることで、校舎や校庭の安全性が確保され、児童が安心して学べる環境づくりに大きく貢献している。 ●環境整備やICT活用については、ルールを確認しながら、教員と児童が安全かつ効果的に活用できるよう配慮していく。	・今後は、生成AIを含めたデジタル機器との正しい関わり方についても学ぶ機会を設け、技能だけでなく情報モラルを身に付けて正しく判断できるようにしていくことが大切である。 ・環境面については、学校だけでなく地域としても協力できることがあると感じている。今後も、施設・設備・環境について、学校と地域が連携しながら進めていくとよい。
	学習・生活環境充実への取組	潤いと安らぎをもたらす学校教育環境の整備と美化に努めた。	3.3	3.8	3.6		